

人さわがせな書 —ある架空物語—

短期大学部教授 河合忠信



“グリグリ”

芥川龍之介が「奉教人の死」を発表し、そこでこの一編が彼の所蔵する「きりしたん版」の一冊、「れげんだ・おうれあ」に拠ると書いたところ、彼が本当にこの原本を所蔵していると感違いした人が、五百円を送ってその原本の購入を申し込んだことをその後の小品「風変りな作品二点に就いて」の中で述べているし、有名な話でもある。

最近の刊行書であればいざしらず、17-18世紀に西欧で刊行された書であれば、その書名や序文だけを走り読みし、全くの虚構の書を、学術専門書、学術調査報告、あるいは航海旅行記などと早合点し、そのつもりで本文にあたってみるとどうも合点がいかず、関係書誌

にも見当たらず、あれやこれや実のない骨折りの果てやっとその書の正体をとらえることができてほっとすることがときたまある。

ここに紹介する一書もその類で、まずその標題を記せば、“GRIGRI/ HISTOIRE VERITABLE./ Traduite, du Japonnois en Portugais par DIDAQUE HADECZUCA,/ Compagnond’ un Missionnaire á/ Yendo; & du Portugais en/ François par l’Abbé de ※ ※※/ Aumônier d’ un Vaisseau Hol-/landois./ PREMIERE PARTIE./ Derniere édition moins correcte/ que lespremieres./ Ridiculum acri./ Fortius & melius magnas pleurumque secas res./ Hor. Lib, Sat. 10./

(ornament)/ A NANGAZAKI,/ De l' Imprimerie de KLNPORZENKRU,/ seul Imprimeur du très-Auguste/ Cubo./ L'an du monde 59749/”

(グリグリ、信じられうる物語。宣教師アイダク・ハデクヅカにより江戸において日本語よりポルトガル語に翻訳され、オランダ船乗組の司祭※※※師によりポルトガル語よりフランス語に翻訳された。第一部。旧版を改めた新版。「ホラテイウス 風刺詩句」。ナンガサキ(長崎?)の公方様の最も権威ある唯一の印刷者クルンボルゼンクルの印刷所より刊行。世界59749年。)

勿論この標題だけでも、例えば刊行年、ポルトガル語への翻訳者名、印刷者名などに作画的なものが感じられるが、それに続く序文、“Preface de Didaque Hadezcuca, que l' on trouve à la tête de sa Traduction Portugaise”をたどれば次の記事に出会う。“Je traduis un Auteur aussi inconnu au Portugal que le Camoens l' est à Yendo, & j' enrichis Lisbonne des richesses dont elle ne devoit pas esperer de jouir...”

(私はちょうどカモエンスの作品がイエンド(江戸)では知られていないのと同じように、ポルトガルで知られていない或る作家の作品を翻訳した。そして私は・・・)

Le Litterature Japonnoise est d' ailleurs si fort ignoré en Europe, qu' on doit sans doute me tenir quelque compte de ce que j' ai eu la modestie de ne...”

(日本の文学はヨーロッパではあまりにも知られていないので、私はこの作品を自分だけのものにせず、こうして公表する私の謙虚な気持ちをどうか汲んで頂きたい・・・)

A Yendo & à Meaco toutes les Bibliothèques m'ont été ouvertes ; il y a au Japon une soule de Grands-hommes, Historiens, Poetes, Geometres, Phisiciens. On compte dans la Capitale jusqu' à dix Genie dans chaque genre. Quel fonds !

(イエンド(江戸)やメアコ(都)のすべての図書館は私にその蔵書の利用を許してくれた。日本には多くの優れた人達、歴史学者、詩人、数学者、物理学者がいて、首都ではおのおのの分野において十人のその道の天才を挙げる事ができる。…)

以上の記述に出会い、ひょっとすればこの書の原典はやはり江戸か都の某の文庫に蔵されているやもしれぬと憶測してみる。というのは、本書が本館の「東西交渉史関係文献コレクション」に含まれているからである。だが、本文の内容にいたってはまったくとるにたらない、ありふれた小説であり、そこには日本的なもの、東洋趣味的なものはみじもない。関係書誌、Cordier,H. “Japonica”. Pagés,L. “Bibliographie japonaise”また Laures,J. “Kirishitan Bunko”の何れにも著録されていない。

とすればやはり本書は虚構の書にちがいない。では一体著者は誰で、何時、何処で出版されたのであろうか？ 本書の印刷されたすべてのページをくっても、またBrunet, J-C. “Manuel du Libraire”にあたってみてもなんの手掛かりもえられない。幸いなことに、表表紙につづく遊び紙の裏に旧蔵者による下記のブルーの鉛筆での書き入れがある。“Grigri par de Cahuzac-1749”. これによってまず本館のO. C. L. Cによって検索してみるとまくヒットし、やっと本書の正体がわかった。著者はCahuzac ( Cahusac ), Louis de (1706—1759). 刊行年については、“Fictious imprint; printed in Paris ? in 1739”とでている。更に本書は全米でカリフォルニア大学図書館(ロスアンジェルス校)のみ、その存在が知られている。更にパリの国立図書館の蔵書目録、ラルース百科事典、人名辞典(Dictionnaire de biographie française, Tom.7)等の記述をまとめれば、本書は18世紀フランスの劇作家カユザック(Cahusac, Louis de.1706—1759)のまぎれもない創作で、1749年、パリにて刊行されたものである。なお著者カユ

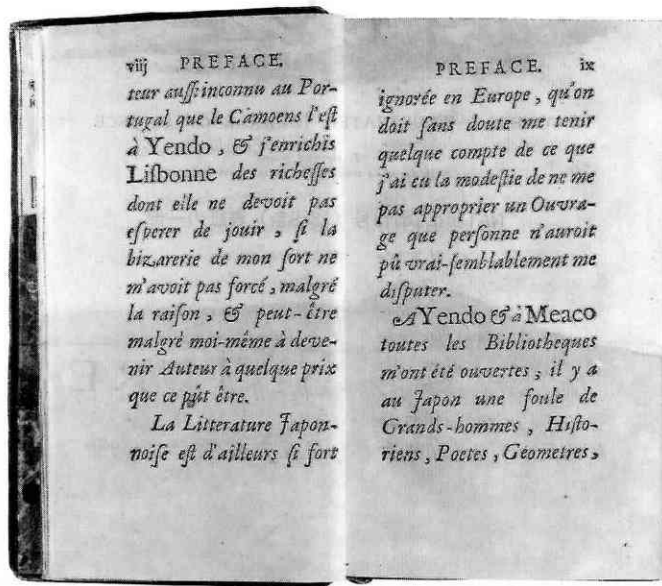
ザックは本編の他に多くの悲劇、喜劇作品があり、進歩的な作家でデイドロ・グランベールの「百科全書」ではヨーロッパの主要な芝居やオペラ関係の項目を執筆している。

たぶん著者は当時のフランスにおける東洋趣味の流行に竿さす意図で本書を書いたのかもしれない。ちょうど「きりしたん文化」のもてはやされていた時に「奉教人の死」を発表した芥川の場合となにか通ずるものがある

ようにおもえるし、もし芥川が本書の存在をしっていたとすれば尚更興味を呼ぶ書といえる。

いずれにしても人さわがせな一書である。とんだ東西交渉史文献である。ちなみに標題にみられるポルトガル語への訳者名“Hadeczuca”は著者の本名のアナグラム（語句のつづりかえ）である。

（稀観書室兼務 書誌学）



“グリグリ” P8~P9